

氏名	小林直哉
学位(専攻分野)	博士(医学)
学位授与番号	博甲第996号
学位授与の日付	平成4年3月28日
学位授与の要件	医学研究科 外科系外科学(一) 専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Effect of FK506 on Abdominal Organ Cluster Transplantation in Pigs (ブタ・クラスター移植術におけるFK506の効果)
論文審査委員	教授 寺本 滋 教授 中山 睿一 教授 辻 孝夫

学位論文内容の要旨

ドナーにDulock Jersey種, レシピエントにLarge White種のブタ(各々体重20~25kg)を使用し, レシピエントの肝臓・膵臓・脾臓・十二指腸・胃の大部分を切除した後, ドナーから一塊に摘出した肝臓・膵臓・脾臓・十二指腸からなるクラスターグラフトを同所性に移植し, 実験群をI群:免疫抑制剤非投与群(n=6), II群:FK506投与群(0.1mg/kg/日, 術後筋注)(n=6)に分けた。平均生存日数は, I群は21.2±14.6日, II群は27.5±37.9日で, 早期死因は, 両群共に術後急性膵炎であった。晩期死因は, I群が移植膵拒絶による糖尿病で, II群がるいそうであった。組織学的に, I群では各移植臓器に拒絶反応が認められ, 特に長期生存例では, 肝移植片の急性拒絶反応は一過性で軽減するも, 膵および十二指腸の急性拒絶反応は機能荒廃へと進行した。II群では, いずれの症例も拒絶反応は効果的に抑制されていた。免疫組織学的にも, I群の移植膵ラ氏島β細胞は, 著明に減少萎縮していたが, II群ではほぼ正常に保たれており, FK506の臨床応用への有用性が示唆された。

なお, 本論文は共著論文であり, 共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究はブタを用いて肝臓・膵臓・脾臓・十二指腸よりなるクラスターグラフトを同所性に移植してFK506の効果を検討したものである。その結果, 各臓器においてFK506の

投与により拒絶反応は効果的に抑制されていることを認めたものであり、臨床応用への有用性も示唆され価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。